

あなたの夢を、暮らしを応援する住宅情報紙



かふう

毎週金曜日発行

2007.8.17

Vol.98

 琉球新報

発行

琉球新報社

〒900-8525 沖縄県那覇市天久905

TEL098-865-5014

購読のお申し込み(0120)395069

企画・編集・制作

(株)正広コーポレーション

〒900-0004 沖縄県那覇市銘苅1-11-9

TEL098-941-8112

新報リビングニュース

残暑お見舞い申し上げます 晩夏



目次

こんな家に住みたい

サトウキビ畑を渡る風と光を感じる家

第93回
Tさん宅

5 ギャラリーに行こう
mofgmona

6 どうする住宅資金
どんなローンがあるの? その7 沖縄海邦銀行

9 シリーズ・ドキュメント家づくり ケースその二十一の一
わが家にも地球にも優しいコケの屋上緑化

10 技人 ものづくり名鑑7
コスメ研究技術者 諸喜田篤さん

11 うちなあ点描88
住む人語らず(十) 美野定雄

12 ペット
HAPPY PUPPY/ペットのお悩み相談室

13 宮良塾
ラティスでフェンスを造る

19 不動産Q&A
アパートの立ち退きについて
街で見つけた住まいグッズ
ワイヤークラフト

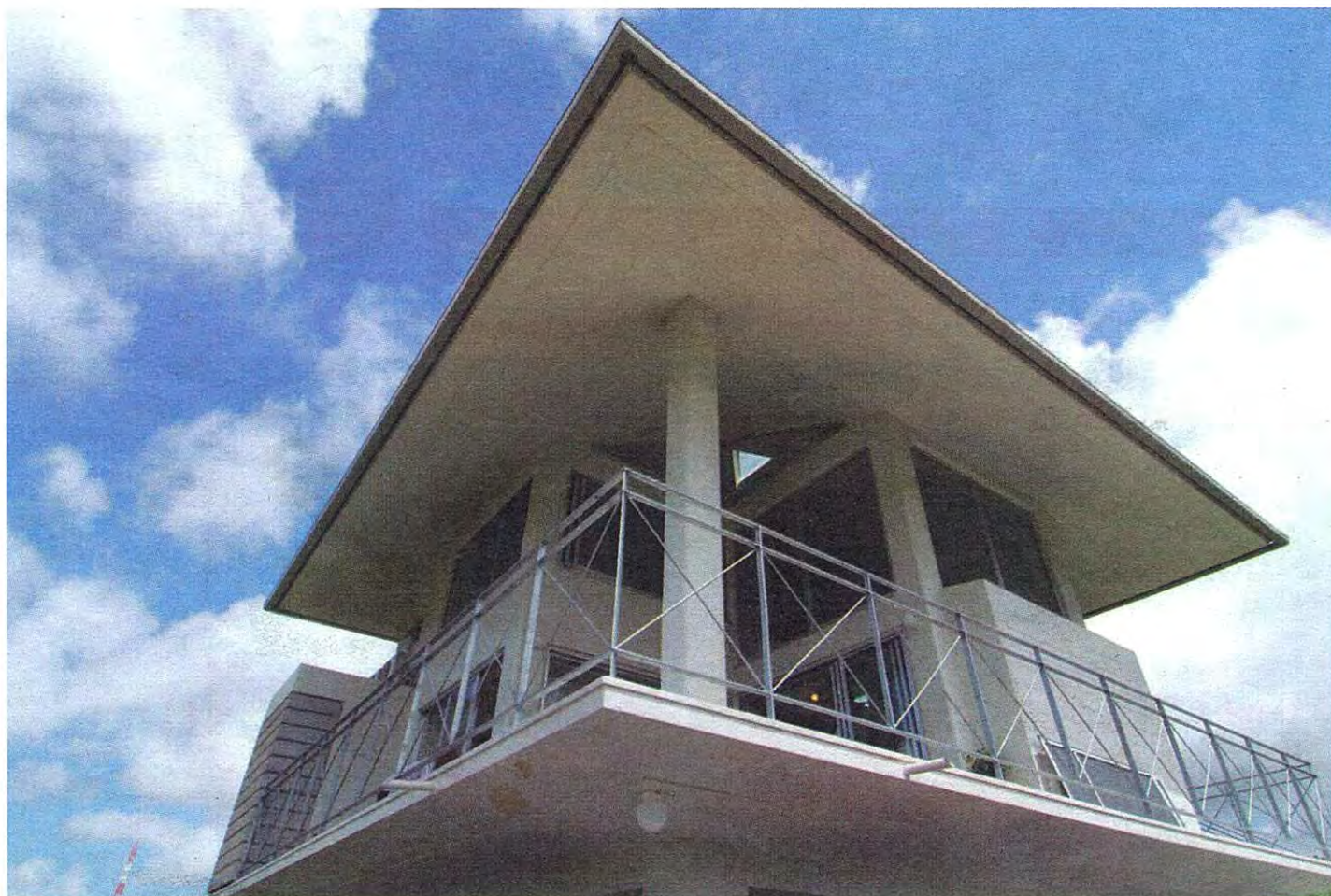
20 かふうセミナー 第1回
遮熱という概念の認識
「沖縄の風土と相性の悪い
コンクリート」後編

22 かふう週報

🌱 こんな家に住みたい

サトウキビ畑を渡る風と光を感じる家

サトウキビ畑に囲まれた親譲りの土地に、ローコスト住宅を建てることにしたTさん。庇を深く張り出したピロティ式の三階建ての住まいは、風と光をつまみ取り込んで快適そのもの。



青空やサトウキビ畑の風景になじむよう、建物全体を無彩色に仕上げました

第93回
Tさん宅



2階テラスから室内を見る

コストを掛けずに
必要最低限のものを

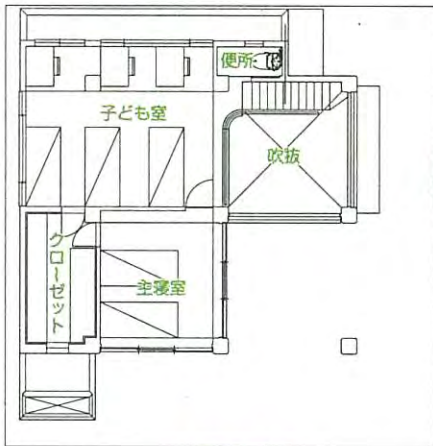
四方をサトウキビ畑に囲まれた、ほぼ正方形のコンパクトな建物がTさんの住まいです。「家づくりを具体的に考えるようになったのは三年くらい前から。親父からこの土地はやる、と前々から話がありました。けれど、子どもたちが育つにつれ、それまで暮らしていたアパートでは手狭になってきたことが大きいですね。それにローンを組むことを考えると、年齢的にそろそろかな」と家づくりにあたっては、十一年来のつきあいの建築士に「任することになりました。Tさんは「なるべくコストを掛けずに必要最低限のものを」と考えました。そこで当初は平屋を希望したのですが、建築士が土地を見た上で提案してきた家のかたちは、ピロ

ティのある三階建てでした。手描きの図面を前に、この土地の個性とそれに合った家づくりを語る建築士に共感し、Tさんは迷うことなくその案を受け入れました。

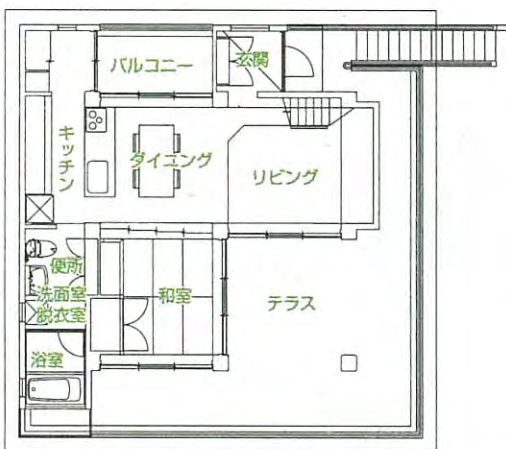
それから約一年半後、緑のサトウキビ畑の中、青空をバックに限りなく白に近いベージュのわが家が姿を現しました。

光と風が入る
健康的な家

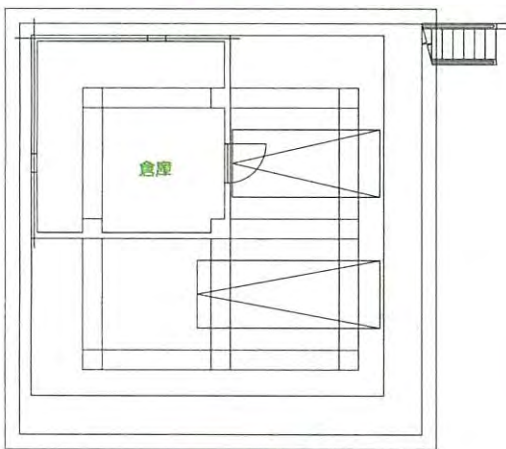
Tさんの家は、サトウキビ畑の中に四本足ですっきりと立ったような、不思議な浮遊感のある佇まいです。その一方、方形屋根を載せ、深い庇を造り、開口部を大胆に設けた外観は、沖縄の民家の風情を漂わせ、辺りの風景になじんでいます。



3階平面図



2階平面図



1階平面図



右上/浴室。バスコートから光が差し込みます
左上/キッチンから水回りを見る。使いやすい家事動線に、収納もたっぷり
下/造り付けのキッチンと食器棚。食器棚の中に照明を取り付けました



リビングは吹き抜け。右側の階段を上ると子ども室。壁や床、天井はもちろん、キッチンや収納も白に近いページジュで統一し、すっきりした印象に



テラスに面した和室

外階段を上り二階の玄関から室内に入ると、窓という窓からサトウキビ畑が見渡せます。内装も外観と全く同じ、白に近いページジュですっきりと統一されています。

「平屋ではなく、一段上げてよかつたな、と実感してはいます。眺めが非常にいいのももちろん、機能性においても一階に倉庫と屋根付きの駐車場を造ることができました。住宅自体も風通しがいいのですが、下にも風が通りますから、建物に熱がこもらない」

二階は吹き抜けのあるリビングダイニング、対面式のキッチン、和室などを配したパブリックスペース、三階は子

Tさん宅データ

家族構成：	夫婦、子ども3人
設計：	チーム・ドリーム(福村俊治・具志好規)
構造設計：	西建築設計事務所(西伸介)
敷地面積：	500㎡(約151坪)
延床面積：	138.77㎡(約42坪)
構造：	鉄筋コンクリートラーメン構造
用途地域：	無指定
完成時期：	2007年3月

- 施工 / (株) 創建設
- 電気 / (有) 美光電設
- 給排水設備 / (有) ライフ工業

ども室と主寝室がメインのプライベートスペースとなっています。コストダウンを図るため、間取りはシンプルながら広々としたテラスや光を取り込む天窗、木塀囲いのバスコートを設けるなど、快適な空間づくりへの工夫が随所に見られます。

造り付けのキッチンと収納は、ローコストかつ使いやすさも考慮されています。

「以前のアパートのキッチンは、高さが合わず、腰に負担がかかって、不満でした。このキッチンは私の身長に合わせてあるので、使い勝手がすごくいいです。IHにしたのも、食器洗い機を入れたのも正解でした。それにキッチンと水回りが直線に並んでいる、このラインがとても気に入っています」と、奥さまも大満足です。

「従兄弟が遊びに来て、すごく健康的な家だね、って言ったんですよ。この一言に集約されている、と思えました」とうれしそうに語るTさん。

都会暮らしが長く、自然との触れ合いが少なかったというTさん一家ですが、この家では沖繩の自然の恵みを日々感じているそうです。

こんな家に住みたい

 サトウキビ畑を渡る
 風と光を感じる家


中のような、外のような。半戸外的空間のテラス

風景に見合う 家づくり



ローコストで実現したピロティのある3階建て。

無駄を省き、シンプルに —— 建築士・福村俊治さん談

サトウキビ畑の中にある敷地を見て、この風景に見合う家にしたと思いました。それは同時に、昔の赤瓦の家にも代わる建物でもあります。サトウキビが大きくなったときに埋もれてしまわないようにピロティ式にし、また遠くから見てもきれいな家、風景の一部になり得る家を目指しました。

設計に凝りすぎて、逆に風景を悪くしてしまうこともあります。何もしないことも重要なのです。いくら一つひとつの家がきれいでも、それが並んだときにごちゃごちゃしては、美しい風景は望めません。風景をつくって、街並みをきれいにすることは大切なことです。

沖縄は冬もそう寒くならず、夏は風が吹いて涼しい。そうすると半戸外が一番気持ちいいということになります。そ

こで、アマハジを思わせる大きなテラスを造りました。寒く暗い北欧のようにインテリアを充実させ、部屋の中で快適に暮らすことを優先するのではなく、気候に恵まれた沖縄では、物がなくても美しく見える空間、光や風などの自然を受け入れる空間づくりを目指すのが適切だと思います。

Tさんからのリクエストは、ローコスト住宅でした。素材に関しては、屋根に特殊な鋼板を、壁にブロックを、また和室の一部を除いて内も外も同じ塗料を用いるなど、安価なものを活用しています。間取りはシンプルにまとめ、キッチンや収納は造り付けにしました。ローコストということ、あまり良くないイメージがあるかもしれませんが、重要なのは無駄なことはしないということなのです。



寝室。左の扉を開くとウォークインクローゼットで、子ども室からも出入り自由です



子ども室

福村俊治

1953年滋賀県生まれ。関西大学建築学科大学院終了後、原広司・ナトリエフ・アキ建築研究所に勤務。1990年空間計画VOYAGER、1997年teamDREAM設立。沖縄県平和折念資料館、沖縄県総合福祉センター、那覇市役所総務庁舎のほか、斬新な個人住宅などを手掛けています。

<http://www.dream-archi.com>



「一番日の高い時間になると、天窓から光がスポットライトのように差し込みます。おもしろいなと思いました」とTさん